

現在施設での研修内容を検討中なので、研修にご興味のある方、ご要望のある方は、担当までご連絡ください。

(淑徳大学 小川:junogawa@soc.shukutoku.ac.jp)

研修には、通訳もつきますので、是非臨床の方のご参加もお待ちしております。

参加ツア-についてのお問い合わせは 03-3363-3326
e-mail: t-watanabe@gloria-t.co.jp(渡辺 敏彦)までお願いします。

平成 23~24 年度 役員名簿

理事長:梶山祥子
副理事長:丸光恵、小倉美知子
理事:石川福江、内田雅代、小川純子、小原美江、塩飽仁
富岡晶子、野中淳子、前田留美、森美智子、
浅田美津子(新)、上別府圭子(新)
監事:吉川久美子、藤原千恵子(新)
事務局長:内田雅代
会計:石川福江、河上智香
広報(機関紙・ホームページ):小川純子、小原美江、
富岡晶子、前田留美
事務局:白井史、足立美紀、高橋百合子

平成 23 年度 委員会名簿

研究委員会:内田雅代、小原美江
学会誌編集委員会:野中淳子、森美智子、米山雅子、
和田久美子
教育委員会:浅田美津子、梶山祥子、竹之内直子、
小川純子、前田邦枝
将来計画委員会:丸光恵、塩飽仁、前田留美、梶山祥子、
小倉美知子、上別府圭子
国際交流委員会:梶山祥子、丸光恵
10周年記念事業実行委員会:丸光恵、塩飽仁、
前田留美、梶山祥子

近畿小児がん研究会看護部門講演会のお知らせ

日本小児がん看護学会役員のみなさま、近畿小児がん研究会看護部門講演会を7月10日(日)午後14時から開催致します。

場所は、「兵庫県国際交流会館」です。

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町1-2-8 078-242-2561

JR神戸線 滨駅下車5分(JR三ノ宮駅から東に1駅です)

講師は、茨城県立こども病院のがん認定看護師である佐藤恵理子さんです。

テーマは「茨城県立こども病院ファミリールームの紹介と小児専門病院におけるがん化学療法看護認定看護師の役割」です。茨城県立こども病院には緩和のために使用できる個室があり、紹介と、小児専門病院でがん化学療法認定看護師として、

現在は血液腫瘍の病棟に勤務している講師をお招きして活動をお話頂きます。ディスカッションをしながら、情報交換をして交流を深めたいと思いますので、是非多くの参加をお待ちしております。

参加希望の方は、所属先と参加者のお名前を、電話やメールで連絡頂けたらと思います。締切はまたご案内致します。
宛先は、神戸大学病院 5階南病棟 小倉美知子へ。

電話…078-382-6775(病棟直通)
Mail: michikado.812@docomo.ne.jp 又は
michikado812@yahoo.co.jp

近畿小児がん研究会看護部門代表 神戸大学病院 小倉美知子

会費納入のお願い

日本小児がん看護学会の年度は、1月～12月となっております。4月に会員の皆様には会費納入に関する書類を送付いたしました。振込みがお済でない方は、お早めにお願いいたします。尚、同封しました振込用紙は、学会の会費納入とは異なりますので、お間違のないよう、お願ひいたします。

尚、9月15日までに平成23年度の会費の納入がない場合には、第9回日本小児がん看護学会学術集会抄録集をお送りすることができませんので、ご了承ください。また、平成23年度の会費納入が確認できた方に、「小児がん看護 第6号」をお送りします。発行は9月を予定しております。

【会費振込み先】
郵便振替口座: 0059-9-79689
名称: 特定非営利活動法人 日本小児がん看護学会
【事務局】
長野県看護大学小児看護学 内田雅代
TEL/FAX: (0265) 81-5184・5186
E-Mail: masayo@nagano-nurs.ac.jp

日本小児がん看護研究会機関誌担当
淑徳大学看護学部 小児看護学 小川純子
千葉県こども病院 看護部 小原美江
【連絡先】
〒260-8703 千葉市中央区仁戸名町 673
E-mail: [\(小川\)](mailto:junogawa@soc.shukutoku.ac.jp)

NPO 法人 日本小児がん看護学会
Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing
— JSPON —
News Letter Vol.13



3月11日の東北地方太平洋沖地震から100日が経ちました。6月29日の警察庁の発表では、亡くなった方 15,508名、行方不明の方 7,207名、8万人以上が今も非難所で生活されています。この数字からも本当に大きな震災であると感じます。さらに、今なお原発事故が収束していないために、放射能汚染に対する人々の不安が高く、特に妊婦さんや小さなお子様をお持ちの保護者の方は「見えない放射能」に大きなストレスを感じていると報道されています。

会員の多くの皆様が関わっている、小児がんの治療を受けているお子様とそのご家族や小児がん経験者の方も、様々な困難や不安を感じ、皆様もケアに頑張っておられることと思います。東北・関東の被害にあわれた多くの方々、また被災されている方々に心からお見舞いを申し上げると共に、1日も早い復興に向けて共に歩んでいきたいと思います。

今回のニュースレターでは、第9回学会のお知らせ、第8回学会の報告、近畿小児がん研究会看護部門講演会の報告、小児がん看護研修会のお知らせなどに加え、がんの子供を守る会の樋口さんにメッセージを寄せて頂きました。尚、第9回の演題締切は6月30日になっておりますが、締め切り日時が延期する可能性もありますので、学会のホームページにて確認してください。

また、SIOPのニュースレターの日本語訳と、8月の研修会のお知らせ、振込用紙も同封いたしました。今年の研修会のテーマは、口腔粘膜障害です。ちらしも同封させて頂きましたので、会員でない方にもお声をかけていただき、多くの方のご参加をお待ちしております。

第9回 日本小児がん看護学会のお知らせ

第9回日本小児がん看護学会は、日本小児血液・がん学会(今年度より、小児血液学会と小児がん学会が統合)、がんの子どもを守る会と同時開催いたします。メインテーマは、「小児血液・がん医療の新たなステージに向かって」、看護テーマは「小児がんの子どもと家族が望む看護支援の実現」と致しました。

今回の学会では「子どもと家族が望む看護支援」を、さまざまな側面から多くの皆様と考え、意見交換をしたいと思います。専門知識を出し合い、検討、評価し看護力を高め自信に繋げたいと考えております。

小児がんの子どもと家族の視点から考える看護支援に関する、実践・調査・事例報告を広く募集いたします。ぜひ学会に参加し、日頃の工夫や成果を発表していただき、活発な意見交換を行い、満足が得られる充実した学会になるよう努めたいと思います。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第9回日本小児がん看護学会

開催期間: 2011年11月26日(土)～27日(日)
場 所: ベイシア文化ホール前橋商工会議所
(群馬県前橋市)

プログラム:

教育講演 1: 「小児がんの子どもの社会保障・社会福祉」
教育講演 2: 「小児がん看護における現状と小児がん診療体制について」

ワークショップ: 「口腔ケアの実践とコツ」

医師との共同企画: 「小児緩和ケアチームの活動と課題」

シンポジウム①: 「子どものワクワクを作る療養環境2
病棟編」

シンポジウム②: 「東日本大震災 被災地の子どもと家族
の支援」

医師との共同企画: 「小児緩和ケアチームの活動と課題」

二学会・がんの子どもを守る会の合同シンポジウム

「子ども学習権利の保障 一病院と学校をつなぐ
架け橋を目指して—」

演題募集期間 :

2011年5月16日(月)～6月30日(木)
申し込みはオンラインでのみ行います。

学会ホームページアドレス:

<http://www.jspho.jp/2011gunma/>

会長: 下田 あい子 (群馬県立小児医療センター看護部)



がんの子供を守る会への問合せと行っている支援

東日本大震災で被災されたみなさまに、心からお見舞いを申し上げます。震災より1ヶ月以上が経過し、少しずつ復旧・復興の話題も聞こえ始めておりますが、一方では原発の不安など、特に小児がん患児ご家族の精神的・経済的負担も大きくなっています。(財)がんの子供を守る会では、

日本小児がん学会、日本小児血液学会、JPLSG（特定非営利活動法人日本小児白血病リンパ腫研究グループ）、日本小児がん看護学会の皆様のご協力を得ながら相談窓口を開設し、様々なご相談に対応しております。震災によって道路が分断され通院が困難になった方、転院をしたことでの治療には大きな影響はなかったものの今後の生活の不安を抱える方、扶養者の就労にも大きな影響を及ぼし、先行きの見えない不安を抱えている方もいらっしゃいます。殊に、原発事故については被災地に限らず小児がんに罹患されたご家族からのお相談は増えています。そこで、当会では弊誌「のぞみ165号」にて放射線治療を受けたことのある小児がん患者への今回の原発事故の影響について、正木英一先生（国立成育医療研究センター放射線診療部長）に寄稿いただいております。一般的な報道などでの解説以上に分かりやすく、放射線治療歴のある方向けに書かれてあるもので、参考にしていただきますと幸甚です。お問い合わせいただきましたら、会員のみなさまに限らずご家族へもお送りいたしますのでお申し付けください。

その他、当会では被災者支援として2011年3月11日に被災地に居住されていた治療中（もしくは治療終了後概ね1年未満）の小児がん患者家族への経済的支援（緊急療養援助）の開始、治療を必要とする患者家族への宿泊施設の受け入れなども行っているほか、これまで通り相談事業、情報提供なども行っています。

詳細は当会ソーシャルワーカーまでお問い合わせください。皆様のお力をお借りして、今後も被災地の小児がん患者ご家族はもちろんのこと、引き続き小児がん患者家族が安心して治療し、療養生活が送れるよう活動を行ってまいりますので、今後ともご支援のほどお願い申し上げます。

〈お問い合わせ先〉

財団法人がんの子供を守る会

E-Mail: nozomi@cca.j-found.or.jp

本部: 〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

Tel: 03-5825-6312（相談専用）

Fax: 03-5825-6316

緊急療養援助以外のご相談は下記大阪事務所でも受けております。

大阪事務所: 〒541-0057 大阪府大阪市中央区
北久宝寺町2-3-1

Tel: 06-6263-2666（相談専用）

Fax: 06-6263-2229



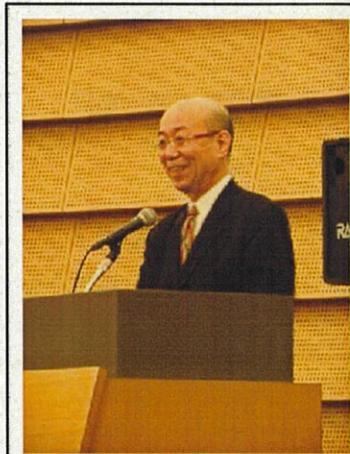
第8回小児がん看護研修会の報告

第8回日本小児がん看護学会は、12月の大阪で開催されました。主催者側の心配をよそに参加者が徐々に増え、多くの方が参加して下さいました。学会抄録がプログラム開始後1時間で完売するという事態となり、本当にご迷惑を

かけてしまいました。看護師の参加は3日間で500名でした。今回は、医師・看護師以外の職種が325名と多く参加されていたのが特徴的でした。

ワークショップの『きょうだい支援』では、研究者、当事者、ボランティア主催者、病棟ナースがきょうだい支援の取り組みと問題点を話題提供され、熱心な討議ができました。弟を亡くした当事者の体験を語っていただいた安道さんのお話は支援の必要性を実感するものでした。午後のワークショップ『小児がん看護におけるコミュニケーション』では、治療効果が望めない時の難しいコミュニケーションに焦点をあてて、専門看護師をはじめとした演者から話題が提供されて、活発な討論ができました。演題は、昨年と同数の62題の発表でした。口演も含めてどの会場もほぼ満席で、質問も多かったように思います。

教育講演では、病院で日々いろいろな困難を抱えている思春期の事例に臨床心理の立場から支援されている吉津紀久子さんの教育講演、鷺田清一大阪大学総長の聴くとうことの意味を再認識できた特別講演、両方とも心にしみるすばらしい講演でした。今年初めて企画した『口腔から栄養まで』



鷺田清一大阪大学総長

では、専門医と専門ナースによる病棟での取り組みの実際を話題にした内容で、チーム医療の重要性を確認する機会になったと感じています。また、公開シンポジウムのテーマは、『子どものワクワクを作る療養環境』で、どんな病院でも存在する職種やボランティアからの発表は、特別な職種がない自分のところでも何かできそうと思う人の増加をねらった企画でした。医師の参加が多く、さまざまな職種が同じ場で考える機会になり、ともに協働することにつながる「元気」や「やる気」を持ちかえっていただけたと思っています。（大阪大学 藤原千恵子）

+++++

第33回近畿小児がん研究会の報告

第33回近畿小児がん研究会が、平成23年2月26日(土)に兵庫県私学会館で開催されました。医師:76名、看護師他:48名、家族・当事者の参加がありました。医師一般演題17題、看護一般演題5題(化学療法中・後の味覚変化、骨髄移植後の皮膚トラブル予防、復学支援、化学療法の嘔氣・嘔吐体験、タミナル児の母への支援の演題)でした。特別講演は「がんの子ども・家族の心と将来」を京都大学病院精神科医から、時期に応じたこどもの心と発達についての対応の講演でした。がんの子供を守る会合同シンポジウムは「小児がん患者の晚期障害について考える」で、シンポジストの小児科医、小児内分泌科医から長期フォローアップ中の晚期合併症、成長発達で注意すべき内容についてと、家族の立場からフォローアップ体制に望むことが出され、活発な意見が交わされました。看護教育講演は、兵庫県立がんセンターがん化学療法認定看護師・日野千奈美氏から「抗がん剤の安全な取り扱いについて」の講演で、日頃行っている化学療法(抗癌剤)での被爆を考え直す内容で、教育体制を考える上でも多くの示唆・課題を頂きました。看護特別講演は筑波大学附属病院がん看護専門看護師・田村恵美氏から「小児がん患者・家族に関わる医療者ストレスマネジメント」で、患者・家族関係を考える上での示唆を頂き、自分自身の意識を改めて振り返ることが出来た講演でした。今回は、看護師の参加が例年に比べると少ない状況でしたが、改めて日々行っている看護ケアを振り返り、考え直すきっかけとなつた講演やシンポジウムで有意義な時間を過ごせました。

次回、第34回近畿小児がん研究会は、平成24年3月10日(土)に大阪大学(吹田キャンパス内)の銀杏会館で開催予定です。様々な施設から演題を募集しています。演題募集〆切は12月末の予定です。是非多くの方々の演題投稿と参加をお待ちしております。

大阪大学銀杏会館ホームページ:

<http://www.office.med.osaka-u.ac.jp/icho/icho-ja.html>

(近畿小児がん研究会看護部門代表)

神戸大学医学部附属病院 小倉美知子)

+++++

平成22年度 研究委員会報告

研究委員会では、平成21-24年度科学研究費補助金基盤研究Bを受けて「小児がんをもつ子どもと家族を中心とした多職種協働チームの看護師支援プログラムの開発」をテーマに、以下の2つの研究班に分かれて、研究活動に取り組んで

きた。

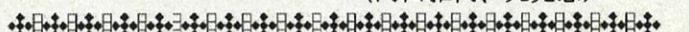
1.『小児がん看護ケアガイドライン』検討班

平成21年度の日本小児がん看護学会研修会「病気や病状についての説明」において参加者を対象に、このテーマに関する看護師の経験やエピソード、その中の看護師の認識を問う質問紙調査を実施した。その結果、病状説明時には看護師のかかわりは多くはない現状が伺え、看護師のかかわりがどのようなことに関係しているか等を分析し、第8回日本小児がん看護学会にて発表した。また、同様に、平成22年度日本小児がん看護学会研修会において「症状マネジメント：嘔氣、嘔吐」に関する調査を、第8回日本小児がん看護学会において、「症状マネジメント：口腔ケア」に関する調査を実施した。それらの結果を分析しメール会議等を用い、研究者らと検討中である。これらの検討結果を基に、今後、ガイドライン改訂のためのケアの課題とその対策について全体会議で協議する予定である。

2.看護のエビデンスに関する検討班

長期フォローアップ、グリーフケアを中心に、全国の小児がんの子どもが入院している病棟師長および看護師を対象に、病棟での看護の実態とその根拠や理由および看護師の認識を問う質問紙調査を実施し、現在詳細な分析を行っている。長期フォローアップに関する看護師の関心は高くななく、一方、グリーフケアに関する看護師の関心は高いものの、対策はあまりとられていないこと等が概観されている。今後、これらの分野において、どのような看護の指針が求められているかについて、さらに検討し、ケアの標準化の可能性を探っていきたい。

(内田雅代、丸光恵)



SIOP2011へのお誘い

今年度の国際小児がん学会(43rd International Paediatric Oncology Conference)は、平成23年10月25日~30日の日程で、New ZealandのAucklandで開催されます。

【Aコース】

22日の夜に日本を出発し、学会の前にシドニーのWestmead小児病院(24日、25日)と、子ども専門のホスピスであるBear Cottage(26日)での研修を行い、27日にオーランドに行く予定です。帰国は31日です。旅費は約37万円です。

【Bコース】

10月25日の夜便で出発し、31日に帰国する予定になっています。旅費は、旅費は約23万の予定です。